

海がないのになぜ？ 全国の釣りばりの約9割「播州ばり」

播州ばりは、農家の副業として小寺彦兵衛が土佐（今の高知県）から現在の加東市に釣りばり作りの技術を持ち込んだことに始まります。また、三木の金物づくりで出た金属のくすなどを釣りばりの材料として使えたことが、釣りばりづくりが広まった理由だと考えられています。現在、全国の釣りばりの生産量は西脇市と加東市を中心とした地域でし90%以上を占めています。近年では、世界各国にも輸出されています。